


平成31年度 都立学校・学校経営シート

校章		都立農芸高等学校 定時制課程		教育課程の特徴	体験をとおして農業後継者の養成・学校設定科目(園芸デザイン、人間と社会)、習熟度別クラス、少人数授業(体育、農業科目、芸術)、点字図書館との連携										
		農業後継者の育成・静かな学習環境				基 進路指導	実 績	四年制大学	0%	短期大学	0%	専門学校	23%	就職	63%
基 本 情 報	所在地	〒167-0035 杉並区今川三丁目25番1号		電話番号	03-3399-0191			本 情 報	主な部活動		バドミントン、音楽、和太鼓、漫画、園芸、ボランティア、テニス、バスケット				
	アクセス	(1) 西武新宿線上井草駅下車徒歩15分 (2) JR西荻窪駅下車関東バス井荻行(約10分)農芸高校前下車1分 (3) JR荻窪駅下車石神井公園駅行、長久保行(約15分)農芸高校前下車5分				学校評価			授業満足度 87%						
	学 科	農芸科(農業を学ぶ学科・農業後継者育成)				入学選抜		募集人員		30人(男女問わず)					
	在 籍 数	82名(男子56人・女子26人)				その他の特徴		筆記試験(国語、数学、英語)、面接							
	そ の 他	野菜・草花を中心に農業を学びます。		校 服	指定服なし		主な学校行事		遠足、修学旅行、農芸祭(文化祭)、収穫祭、球技大会、奉仕活動、課題研究発表会、伝統芸能鑑賞教室						
目指す学校		国家社会の形成者として必要な一般的教養及び農業に関する専門的技術と科学的態度を身に付け、あわせて明るい社会づくりに貢献しようとする人材の育成を図る。世界に通用する農業後継者の育成													

今年度の重点目標				今年度の取組と自己評価											
目 標	①	学習指導 ・ICT機器の活用とアクティブ・ラーニングによりわかる授業を展開。 ・授業計画、授業改善、教材の精選と工夫を行い、特別な支援を含め個別授業の充実。 ・基礎学力の充実に向けたシドを充実し、わかる喜びを持たせる。 ・専門教科の実験・実習を充実し、職業意識を高める。		・ICT利用授業、調査研究授業、反復学習指導や演習の実施により基礎的内容の理解を高め定着を図った。また、レポート作成により自分の考えを表現できるようになった。・生徒を授業に参加させる授業を展開する方法として、アクティブラーニング、探究調べ学習の実践が各教科で行われたことで、生徒が発言する機会が増加した。・定期考査前に補習や個別指導等の振り返り指導により、学習への意欲を高める指導を行った。検定前に、始業前授業、放課後、長期休業中に個別指導が行われた。・主権者教育やオリンピック・パラリンピック教育は、全体指導で実施するとともに、各教科において関連事項として取り上げ投票の意味、オリンピックの意義を理解した。											
	②	生活指導 ・時間を守る習慣を身に着けさせる。自ら考え進んで行動する態度の育成。 ・安全指導や防災教育、SNSや薬物等から身を守る指導を通じて規範意識を醸成する。 ・いじめ防止や自他の生命、人権を尊重する指導を推進し豊かな心を育み、中途退学者を減少させる。		・時間を守る指導を集会や授業、学校行事などで行ったが、遅刻や欠席が微増している。また、集団生活における規律もきめ細かく指導し、課題がある場合は個別指導により問題の意識付けを行い、理解させた。・社会の一員として大切な礼節指導は、集会時に全体で実施するとともに、個別に注意を促すなどを通じ実施した。授業中の飲食、スマートフォンの使用は低下した。・いじめ等に関する指導として「いじめアンケート」を3回、全生徒に行い、生徒の状況把握に努めた。またSNS等の使用上のルールや活用の仕方について指導を徹底した。・いじめは犯罪であるとの考え方により、指導、生徒研修を行った。・登下校の交通安全や自転車通学の安全確保と自転車保険について指導した。生命の尊重について生徒、教員に指導を行った。											
	③	進路指導 ・低学年から計画的なキャリア教育を実施し、将来の進路の自覚を持たせる。 ・生徒の希望進路を実現するため、面接や小論文指導等をきめ細かく指導する。 ・生徒が必要とする進路情報の提供に努める。		・将来の進路への意識が希薄な生徒が多いことから1学年からの計画的な進路指導を進めることとし、1・2学年では生活リズムの安定を行い、上級学校訪問、会社見学、農業大学校、農家等の具体的な進路に向けた指導を3・4学年で実施した。・希望進路の実現に向け、担任や進路担当等により、3年生3学期、夏季休業中に小論文指導、履歴書指導、面接指導をきめ細かく実施した結果、ほぼ全員が進路決定に至った。・進路講話などの進路指導行事を通じて進路情報の提供に努めた。また、生徒の希望を調査し、それに対応した企業や上級学校の訪問を教員が行い生徒に情報を提供した。											
数 値 目 標	今年度の数値目標の内容			28年度		29年度		30年度		今年度		32年度	33年度	34年度	
				目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	目標	目標	
	目標①	遅刻者数の減少(各クラス1日当たり)			1.5人	1.32人	1.2人	1.35	1.2人	0.7人	1人	1.52人			
	目標②	中途退学の低減			7%	4%	5%	4%	5%	3.3%	4.0%	3.7%			
目標③	進路決定率を高める			90%	90%	95%	100%	95%	91%	100%	100%				